

# 読書ノート

池内 紀著  
講談社

・みんな昔はこともだつた 手塚治虫、向田邦子、林実美子、宮本常一、睦地梅太郎、高峰秀子……興味深い15人の「ことも」が人生をどう歩んだか。その人ならではの仕事をなし、生き方をした人たち。ページの間から少年、少女の声が聞こえ、風や光や町の動きも生きています。あの人々は、こんな生き立ちだつたのかー。私のことも時代も動きたす。母の実家でイトコたちの本棚のアトム、火の鳥、シャンクル大帝、リボンの騎士……。私はひとり座敷に座りこんで漫画に夢中だった。因んぼから緑の風が吹きってきた。治虫は少年時代からすでに「手塚治虫」だった。この本も著者の幼い頃からの積み重ねから生まれていったのだ……。

生きとは? そして人生をどう終えることができるのか!

## ちいさな桃源郷 山の雑誌・アルフの傑作集

池内 紀編 中公文庫

山河と人と生きものを小声で語りつづけた伝説の山の雑誌「アルフ」。昭和58年から25年(根強)読者に支えられ、300号をもって終刊となりました。地味で上品で奥深く、憧れをわかせてくれた小さな雑誌。この中から選ばれた、庄野英二、辻よしと、吉田元、串田孫一、睦地梅太郎、尾崎喜八らの「珠玉のエッセイ」。

若い日、アルフに出会って、たどり出した世界がしづかいで広がって、友たちもできた。私は山登りはほとんどやらないのに山の本が好きだ。GORIさんも山の名著をたくさんもつてます。この本はすぐには幻戯書房から単行本で出されないか文庫本になつて、いつでも気軽にいたのしめる、若い人にすすめたい。「山の仲間たち」(幻戯書房)もぜひどうぞ。

小松菜とサバ缶炒め煮 アボニーでいいコーヒー飲んでから梅雨の若葉が  
かんたん、おいしい安い!  
(2人) 小松菜150g 宽いほい光輝くのを  
3~4cmに切る茎と葉に 作がめ、暑い季節の  
分ける。 サバ味噌缶(175g)、フライパンに  
サバ缶を汁ごと入れ、身を粗くほぐし酒大さじ  
1杯、ひっくり返したら茎、しなりしたら葉を  
入れ、火を通して、ひょうかー汁1/2ケタを入れる,  
味が足りなければほりゆうを、一味辛子ふる。  
私は豆腐も入れた。エンドウ  
新玉ねぎもいいね。

けやき通信 2018.5月  
No.299

## 一錦織 佳代子一

五月の味です。~~



畠からお鍋に直行、あまい。

熊谷守一 生けるよがい展 愛媛県立美術館

20世紀の総合芸術家  
イサム・ノグチ展 香川県立ミュージアム  
5/12 開幕から身体・庭へ――

4/26 私の好きなモリカズの大回顧展  
大満足!! 古典的な初期作品  
からあかるい色と単純化されたかたちへ  
変化。日記、スケッチ、

GORI 何人と  
思ひました?  
あのー日本人です  
ゼラニウムの花  
病室  
一輪の花  
この辺の小さ  
い鉢  
GORIさん  
エクス  
モロコシ  
ミー!  
GORIさんは  
近づいて  
英語で  
注意された  
美術館では  
食べ物、飲み物もちろんX  
ダメ・カムX・ボーラーベンXえんひつ○



## おいしいうどんを食べて栗林公園へ

一千本の見事な松の木、せりたく気分。  
(国の文化財庭園の中でも最大級の広さをもつ江戸初期の回遊式大名庭園)

光頭会 外へ出ると、ハゲ頭のおじいたちが  
旅人につるぎボランティア、「つる頭おじい会」  
おもしろかった~~。

モリカズの次女樋口さんの画文にも「アルフ」で  
親しんでいて、うちの次女に勝手に名前を頂いて  
市役所に届けたら、「今、この字は使えません」  
そこで可也としました。

5/21 四ヶ領へ フナやミスナなど山は新緑が  
光輝いて、鳥の声もはずんでる。  
私も生き返る。